

## 言語的カテゴリとしての移動の問題

守田 貴弘（東京大学グローバル COE 特任研究員）

本発表は日本語とフランス語の移動表現に関する問題を扱い、具体的には以下の2点を目的とする。1つは従来の種類論の手法を受け入れた上で、日本語とフランス語における動詞分類の問題を整理することである。現状の種類論では動詞を経路動詞と様態動詞に2分する方法がとられているが、分類基準は必ずしも明確ではない。本発表ではアスペクトによる動詞分類を示し、現状では経路の構成要素とされている *vector*, *conformation*, *deixis* といった諸概念がそれぞれ異なった言語的性質を持っていることを主張する。

もう1つの目的は、移動表現という研究対象の設定そのものに関わる問題を提示することである。先日のシンポジウムでは野矢茂樹氏によって「語単独で意味を持つという破棄すべきドグマが生き残っているのではないか」という指摘がなされたが、直観的に動詞を拾い集めて移動表現というカテゴリを設定するのはこのドグマではないだろうか。果たして正当な方法で移動表現を扱うことができるのか、扱えるとしてこのような対象設定にどのような意義があるのか検討してみたい。